

令和4年度 教育保育活動等に対する学校評価書

令和5年2月17日

学校法人めぐみ幼稚園 めぐみこども園長 山田典子

学校法人めぐみ幼稚園 学校関係者評価委員長 佐藤真希

1 幼稚園の教育目標

昭和22年創立以来、キリスト教の「愛の精神」を根底におき、乳幼児の発達に相応しい心の教育を行っている。共に喜び、共に育ち合うために、保育者は一人一人の内面を理解し温かくきめ細やかな援助を行う。また、主体性や協同性を発揮して遊べる環境を構成し、生きる力の基礎を培うことを目標とする。平成27年度より幼保連携型認定こども園 めぐみこども園に移行したが、創立の精神は大切に守っている。

1. 子ども自身が大切な存在として受け入れられていることを実感し、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができる。
2. 目に見えない神の恵みを、常に感謝と喜びをもって受け止め、神に愛され、人にも愛され、喜びをもって人と関わることができる。
3. 自分と他の違いを認めると共に、友だちと共に喜び、共感できるようになる。
4. 主体性を持って心を動かし、探求心、判断力、想像力をもち、創造的に様々なことに関わるようになる。
5. 感じたこと、考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現力、想像力を身に付ける。

2 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

【重点目標】

- ・教育課程、指導計画の内容を確認し、新たに年間カリキュラムを作り替え、子どもの育ちに着目して計画し、実践していく。また、キリスト教保育の年間主題を「つながって～今、わたしを生きる～」とした。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、状況によっては保育の縮小・自粛等も視野に入れて計画を立てる。マスク着用、手指・遊具等の消毒の徹底。空気清浄機の活用を行い、子どもの安全確保のため最大限の努力をする。また、発達に相応しい保育の展開について、状況を注視しながら判断し適切に関わる。
- ・保護者や地域との連携を深め、信頼される温かな幼稚園づくりを目指す。
- ・外部講師による絵画造形活動を通して、教員の資質向上を図る。また、様々な行事の内容も見直し、より保護者も園の活動を応援したくなるようなものにしていく。
- ・特別支援を要する園児に対する理解を深めるため、巡回指導の臨床発達心理士から助言を受ける。
- ・教育要領の中にある「卒園までに育てたい10の姿」を研修テーマとし、その姿に向かうための活動を各学年で考え、取り組んでいく。

乳児

- ・母親と離れて新しい環境で過ごすことへの不安を解消し、安心安全に過ごし、楽しさを見いだせるように援助する。
- ・一人一人の生育歴や生活環境、個性を理解し、保育教諭の共通理解を図る。
- ・自立を目的とし、お手伝いを初め乳児自らが生活に必要なことを進んで行えるよう指導、援助を行う。

幼児

- ・安心感や信頼感が得られる環境の中、友だちの良さに気付き、心も体も動かして意欲的に活動するように援助する。自己肯定感がもてる子どもを育成する。
- ・友だちとのかかわりを深め、協同性を育む豊かな体験や活動ができる保育を創造する。
- ・園内環境に留まらず、近隣の地域環境を利用してより多種多様な経験ができるよう計画を立てる。
- ・小学校教育へのなめらかな接続を視野に、人間関係・コミュニケーション能力、規範意識等を身に付けさせる。
- ・基本的な生活習慣を見直し、一人一人の課題について保護者と共に見直し改善に向けて努力する。また、生活力の向上を図るため、お手伝いや運動にたくさん取り組む。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果評価点は A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価点	こども園としての反省と改善策	評価点	意見
保育の計画と実践について	<ul style="list-style-type: none"> ・園の理念・教育課程、指導計画の内容を確認し、教職員の共通理解を図り教育の質を高める。 ・キリスト教の「愛の精神」について学ぶ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大により行事、保育内容の削減を行った。このため行事ごとに計画の見直しを図った。安心・安全を第一に考え、昨年度に増して教員一人一人のアイデアを生かし意欲的に計画を立てて実行した。日常の活動から行事に結び付け、活動内容も充実させることで子ども達の成長へとつなげることができた。 ・幼保連携型認定こども園教育保育要領の理解を全教職員で積極的に推進し、実態を把握しながら日々の保育の改善に繋がる研修を継続していきたい。 ・毎月「キリスト教保育誌」を読み合い年間主題について意見交換を進めた。幼児の具体的な場面を話し合うことでキリスト教の「愛の精神」を共通理解できた。しかし保護者アンケートから、保育実践の中から伝えていく難しさを今年も感じた。 ・外部講師による年間カリキュラムの研修が4年目を迎えた。園の理念や教育方針を踏まえて、早期にカリキュラムを編成することに教員が前向きに取り組んでいる。引き続き、カリキュラムの見直しや教材研究を通して、より良い保育を子どもたちに提供できるよう努力していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、行事が縮小されたり、中止となったものもあったが、多少緩和された行事もあり、保護者参加もでき、子ども達の園生活は日々楽しく、充実していたと思う。 ・毎日、手指・遊具の消毒、マスク着用等に心を配ってもらい、感謝している。 ・子ども達の日々の生活を垣間見ても、はつらつとして生き生きと楽しんでいる様子が伺える。そして、子ども達の表情が明るく大変穏和で、言葉遣いも丁寧であることから、教師の援助の細やかさや温かみを感じる。 ・「ひびき合う」などの園だよりから、キリスト教保育の温かさや、職員全員が子どもに愛情を注いでいることが伝わってくる。 ・外部講師の影響からか、子ども達が絵を好きになり、楽しみつつ集中して描いていることが作品からも窺える。清水私立幼稚園協会主催「5歳児絵画展」が協会HPで公開されたが、めぐみの子ども達の作品は際だっていた。 ・母の日、父の日、感謝祭、クリスマスなどで、園で作ったプレゼントの質が向上しており非常に感動している。これは教師の指導の賜物と思う。 ・アプリ、ブログの導入は有効であり、業務内容が改善されたことは非常に良いと思う。保護者世代は紙面よりアプリでの配信が身近であるため、今後、園からのお知らせ等可能な限りブログ、ホームページにおいて配信してほしい。

<p>保育のあり方、乳幼児への対応</p> <p>発達障害児の援助</p> <p>食育の充実</p>	<p>乳幼児の生活や発達に即した援助について</p> <p>異年齢交流</p> <p>預かり保育</p> <p>行事のみ直し</p> <p>食育</p> <p>保健・安全指導</p>	<p style="text-align: center;">B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスの担任だけでなく、全教職員が幼児一人一人の内面を理解し優しく温かな援助を行い、発達課題について日々検討している。乳児と幼児の教員のコミュニケーションを多く図ることで、異年齢のかかわりも増し、子ども理解が深まり、教員同士のつながりも深まってきた。 ・異年齢交流の機会を意識的に多く持つことで、子どもの育ちにつながっている。大きい子は小さい子に優しく、小さい子は大きい子への憧れを持ち、互いに学び合い刺激し合っている。 ・子どもたちに片付けや掃除の楽しさを伝え、子どもと共に環境を作り上げるよう心掛けている。家庭でのお手伝いにつなげていきたい。 ・預かり保育担当の保育者を増員し、保育内容をカリキュラム化した。日中からの遊びや育ちに合った午後の遊びを計画することで、子どもの活動が充実し、成長に繋がっている。 ・新型コロナウイルス感染症拡大により、保護者が来園する行事（親子で過ごす日、運動会、クリスマス会、感謝祭、夏祭り等）の縮小、また中止せざるをえない状況であったが、保育の充実の観点から、様々に工夫を凝らし子どもの成長に繋がれたと感じている。多少緩和傾向にあり、保護者参加が増えた行事もあったが、まだ制限することの方が多く、保護者との対話の機会が減少し、連携が難しかった。 ・給食は勿論のこと、おやつも給食室で手作りを基本としている。メニューを伝え、料理に合ったカトラリーを選ばせることで食事のマナーも学んでいる。 ・毎朝、園庭の遊具の安全チェックや砂場の衛生管理を行っている。 ・特に乳児には注意を払い、室内の衛生管理、安全管理を日々チェックしている。 ・幼児は別館と本館の間に公道があるため、交通安全教室で道の渡り方を指導してもらい、お散歩や帰りの道でも子ども自身が注意を払えるよう教職員が指導している。 	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が全員の子どもをよく理解し、丁寧に関わっているため、安心して子どもを預けることができる。 ・年長、年中児は自ら率先してやることを見つけようとしていたり、年下や乳児の世話も積極的に行ったりする姿も見られるようになり、親としても嬉しい限りである。縦割り保育ではないが、同じ効果が得られているように思われる。 ・生活経験や直接体験に欠ける子どもが増えているように感じる中、園側で補おうと努力していることを感じる。 ・様々な家庭の事情から預かり保育の人数が増えているが、充実した活動内容が考慮されており、安心して利用している。おやつは市販のものが少なく、子どもの体に対する暖かな配慮を感じる。 ・コロナ禍で今年度も行事が縮小・中止されたことは残念であるが、日々の保育を充実させ、行事に代わる活動を園が試行錯誤し実施している様子が伝わってきた。子ども達の成長を如何に促そうとしているのか努力が感じられた。 ・めぐみこども園は給食が美味しいことで定評があるので、このまま手作り給食・手作りおやつを続けてほしい。また、野菜作りなどを通しての食育教育も引き続き深めてほしい。 ・子ども達が大好きなアスレチックなので、今後も安全管理に務めてほしい。
--	---	--	---

	障害の特性や個別の支援方法について		<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導のカウンセラーによる個別指導の下、具体的な手立てを保育者間で共有し、保護者と面談してもらうことにより、保護者の子ども理解が深まり、子どもの成長がみられた。また、外部の支援施設に通所している園児が増えてきた。施設の教員の訪問を受け入れ、園、家庭、支援施設の3者で共通理解を得て子どもの育ちにつなげている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の子どもへの研修は今後も継続して行ってほしい。また、巡回指導のカウンセラーの指導があることは、教員だけでなく保護者の安心にもつながることだ。保護者の子ども理解も深まっていくことを望んでいる。
遊びの充実と子どもの育ちについて	友だちとのかかわりを深め、協同性を育む体験や充実した環境の工夫と援助について	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が自己発揮できる場面や友だちの良さを認め合い仲間づくりができる環境を設定している。また、友だち同士のかかわりを深め、一つの目標に向かって協同する体験や活動ができる環境を整えたことで、自信を持つ姿が伺えた。 ・園外保育などで思い切り体を動かす経験、豊かな自然に触れ合う機会を多くもつことで、情操教育に繋がりクラスの一体感が生まれた。このような機会を通して体力向上、道徳性や豊かな感性の芽生えにも繋げていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園での積み木遊びや砂場でのダイナミックな遊び、アルチックでの活動を見ていて、充実した園生活とを感じる。子どもはこのような遊びを通して、友達の良さに気づき、アイディアにも共感して、仲間意識が生まれると感じた。 ・園外保育はスクールバスの活用で、体験活動の幅が広がり充実した時間を過ごしていると思う。園庭が狭いので、広々とした場所での活動は有意義である。コロナ禍で制限された活動が多い中、自然の中で思い切り体を動かせることは子どもにとっても良いリフレッシュとなった。 ・野菜作りから食育体験へと繋げていく活動も意義深い。また、プランターや鉢植えの花も子ども達の手で植え替えをしたり世話をしており、情操教育として有効である。
小学校教育・家庭との連携について	規範意識を高め、小学校入学への滑らかな接続を図る	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートが、家庭での生活を知る良い機会となった。小学校生活に向けて不安を抱えている保護者も多く見られたが、子ども自身は例年に比べても自立している。 ・体力作りとお手伝いが生活力の基盤となるため、ほぼ毎日、園庭においてアスレチックを活用したサーキット運動を実施した。また、時間の意識、持ち物の整理整頓など基本的な生活習慣を見直し、「できることは自分でやる」ことで、自信をつけるための研修を重ね実行した。 ・公開保育を実施し、小学校の先生方へ当園の保育や子どもの実態を見て頂く機会とした。 ・5歳児は近隣の小学校訪問をして1年生の授業参観をし、小学校の雰囲気を味わったことは有意義な経験となり、小学生への意識が高まった。 ・交通安全教室を通して、通学の心得や安全な歩行について学ぶ機会をもった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の小学校へ入学することをふまえて、様々な「生きる力」を育み保育していくことで、こども園で培った学びや道徳性などが、小学校以降の生活や学習に生かされていると思う。 ・小学校を見学しただけでも、子ども達は学校への意識が高まると思う。小学校の先生と連携を深めてほしい。 ・教職員が近隣の小学校へ授業参観に行き、卒園生を励ましていると伺い、とても意義深いことと思う。今後も継続してほしい。 ・近年、子ども達を取り巻く環境が様々に変化して、生活力の乏しい子どもが増えていると思う。子どもだけでなく、子育てに自信が持てない親も多い。園では子どもと親の両者が学べる場として教育を提供してほしい。

<p>教師としての資質や能力・良識・適正</p> <p>研修と研究</p>	<p>専門家としての能力・良識・義務</p> <p>保護者対応</p> <p>地域の自然や社会との関り</p>	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師としてのプライドを持ち、園外においても言動に十分気を付けている。 ・組織の一員として各々の役割を果たし、教職員同士尊敬の気持ちを持ち人間関係を大切にしている。 ・子どもを取り巻く社会情勢に常にアンテナを張り巡らせている。 ・個人情報等守秘義務は遵守している。 ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、多くの研修会が中止となり、リモート研修が主流となった。直接講師から講義を受ける研修のほうが意義深いと感じるが、研修を受けられることは保育者の資質向上につながる為、受講を促している。 ・保護者には誠実な態度をとり、子どもの育ちについて理解と協力を頂けるようコミュニケーションをとっている。 ・保護者からの意見は真摯に受け止め、園長はじめ教職員で話し合い、改善できることは即実行に移している。 ・お散歩マップを作成し、地域の道路や施設（公園など）の環境を把握し、自然のみならず安全面に関しても注意深く見直しをした。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・めぐみこども園の教職員であることを常に心に留めて建学の精神を大切にしていくことで、地域の人々から信頼される園になる。卒園生もこの園をずっと愛し見守っていることを忘れないでほしい。 ・今年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、園へ行く機会が減少したため、教員と親しく話す機会がほとんどなかったことは残念であった。（1号認定児） ・桜橋工事に伴い、園周辺の道路の交通量が以前に比べて増加している。園から出かける時、散歩等は十分気を付けてほしい。
<p>不適切ほいくについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が子ども達一人ひとりを大切に保育しているか ・愛情を持った対応ができているか ・教職員同士が互いを尊重し合い、良い職場環境づくりがなされているか 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教保育を実践していることから、「他者への思いやり」「互いを尊重し合うこと」を子ども達へ伝えている。それは子ども同士のみならず、保育者同士も同様である。イエス・キリストの教えを、学ぶため、毎月のバイブルクラスで牧師から教えを受け、キリスト教の理解に励み、それを子ども達へと降ろしているが、保育者自身の心の糧ともなっているからこそ、子ども達へ降ろせるのである。 ・静岡県主催の「不適切保育について」の研修を受けた際、課題として園内研修も行った。日々忙しく仕事をしていると疲弊してしまうこともあるが、互いに認め合い、年齢・経験を問わず一人ひとりが大切にされる環境がとても良いという意見が出た。また、日々の報告で子ども達の様子を伝えあっていることから、全員の保育者がすべての子どもを理解し、対応している。そのことは、保護者アンケートからも感謝の言葉が多く寄せられた。 		<ul style="list-style-type: none"> ・めぐみの保育はとても丁寧で、先生たちが子ども全員を理解・把握して暖かく見守ってくれるということを外部からも聞き及んでいる。社会現象のようにメディアで取りざたされ、叱ることもできないような雰囲気になってきていることに危うさを感じている。めぐみの先生方は、きちんと何が悪かったのか説明し、子どもが納得できるように話して下さるので、子ども自身がよく理解し、成長へとつながっているように感じる。今後も暖かい保育を続けていってほしい。

<p>スクールバス事故について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乗降確認 ・出席確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月のスクールバス事故のニュース後、自園で現在の確認方法を見直し、乗降時についての確認を強化した。バス座席表のチェック方法、項目を再検討し、再構成した。また、園に到着した時には必ずダブルチェックをしている。 ・ 出席確認確認は毎日バスが到着してから、保育室へ連絡し、出席者と遅刻者の確認を行っている。連絡のない遅刻者へは連絡をし、保護者に確認している。 ・ 保育者一人ひとりの意識が高まり、事故につながったことはない。 ・ 9月に幼保支援課の監査を受け、問題ないと評価された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月の事故は非常に痛ましく衝撃的な出来事だった。このようなことは2度とあってはならないし、自分の子どもが通う園でも起きてほしくないと思切に思う。毎日気を付けていても人災というものは、起きるべくして起こるものであるので、乗降者、出席の確認は毎回必ず行ってほしい。事故を受け、再検討され、幼保支援課の監査も通ったということで安心しているが、今後も怠ることなく意識高く実施していってほしい。
---------------------	--	---	--

<p>新型コロナウイルス感染症対策</p>	<p>登園・出勤について</p> <p>給食時</p> <p>通園バス</p> <p>行事</p> <p>迎え時の保護者対応</p> <p>感染者が出た場合</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検温カードを作成し、毎朝検温して記入したものを持参する。体調に変化がある場合、体温が 37.5 度以上ある場合は、登園・出勤をしない。 ・教職員・幼児は必ず不織布マスク着用を呼びかけ、全員が実施した。乳児は窒息の危険性から着用していない。(文部科学省からの通知を遵守)しかし、乳児で感染拡大したことから、12月より2歳児はマスク着用を呼びかけた。また、夏の熱中症を危惧した措置として、室外でのマスク着用は不要と通達があったため、以来外あそび中はマスクをはずすようにしている。 ・登園・出勤する際、門でアルコール消毒を徹底している。また、入室時・給食・おやつ前には手洗いうがいを徹底した。 ・幼児は給食の際にパーテーションを設置し、1テーブル3～4人で食事をし、黙食を呼びかけた。 ・通園バスは乗車前後に消毒をし、園児は1座席に1人が座り、窓を開けて走行した。 ・昨年度に引き続き、保護者参加の行事は蜜を避けるため、園児1名につき保護者1名のみの参加に限り、日程を分散して実施するものもあった。しかし、ワクチン接種が広まり、世間の新型コロナウイルスに対する考え方や捉え方が徐々に変化し、緩和傾向になってきたため、中止していた感謝祭を実施し、祖父母の参加を年長児に限定してお招きした。また、運動会への保護者参加を「常識の範囲内」として限定せずに行った。その一方で、今年度卒園児は入園の時からコロナ禍であったため、両親で行事へ参加できたものが少なく、保護者アンケートでは緩和に乗じてもう少し参加したかったという声が多かった。 ・感染が拡大している時期は保護者のお迎えをピロティーマでと限定していたが、緩和に乗じて解除し、室内までお迎えを可能とした。 ・預かり保育の迎えはできるだけ早い時間に来るよう協力を仰ぎ、18時以降の延長保育は実施を停止していたが、緩和に乗じて10月から再開した。 ・園児に感染者が出た場合は、幼保支援課に連絡をし、指示を仰ぎ、速やかに全保護者へ連絡し、学級 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も幼児は全員がマスク着用、手指消毒や給食時にパーテーション使用と黙食を徹底していたことは、保護者の安心にもつながったと思う。また、濃厚接触者の定義が変更され、お休みを要請される保護者が少なくなったことは、社会を回す意味でも良かったと感じている。 ・今年度は乳児棟で大人数の感染者が出たこともあったが、園の対応は適切であり、学級閉鎖も致しかたないことだと感じた。マスクを着用することの方が危険性を伴う乳児の扱いは難しいところではあるが、日々の教育環境を大切にしたいという園の考え方には賛同できる。2歳児のマスク着用も、先生方が注意しながら見守っている様子が伝わってきたため、安心感があった。 ・今後も新型コロナウイルスが5類へ移行するにあたり、緩和していく対応は注意が必要だ。今後も最新の情報をキャッチして子どもたちが安全・安心して過ごせる環境を整えていってほしい。
-----------------------	--	---	---

	遊具・玩具の 管理		閉鎖措置をとった。職員にも感染が広がり、保育が 困難となった時は、濃厚接触者以外の園児にもお休 みの協力を依頼した。 ・遊具や玩具は毎日消毒を行っている。 ・乳児用玩具は紫外線消毒庫で消毒を行っている。		
--	--------------	--	---	--	--